

研究成果発信の在り方について ～機関リポジトリの検討～

2006年9月8日(金)

2006年度 研究企画課・人文社会リサーチオフィス
合同夏期研修

研究企画課 市原 岳洋
図書館サービス課 松本 淳

構成

1. 大学に求められているもの
2. 機関リポジトリとは
3. 機関リポジトリ誕生の背景
4. 世界の機関リポジトリ構築状況
5. 機関リポジトリの仕組み
6. 機関リポジトリのメリット
7. 対象となるコンテンツ
8. 研究者データベースとの関連性
9. 機関リポジトリ事例

1. 大学に求められているもの①

- 教育
- 研究
- 社会貢献

*** 学術研究成果の国際的発信が重要！**

1. 大学に求められているもの②

学術情報基盤の今後の在り方について(報告)

**「国際的な学術研究成果情報の
発信は我が国の責任である」**

2006年3月23日

科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会

1. 大学に求められているもの③

研究高度化中期計画(案)

**「研究成果の国際的発信について、
大学として組織的な取り組みを強化」**

- 学内で生産された多様な成果物や研究者情報を集積し、社会的に公開していく。
- 研究者、研究資源の情報が蓄積されることによって、新たな領域の創造や融合の可能性が広がる。

2. 機関リポジトリとは

「大学および研究機関で生産された
電子的な知的生産物を捕捉し、保存し、
原則的に無償で発信するための
インターネット上の保存書庫」

(国立情報学研究所より)

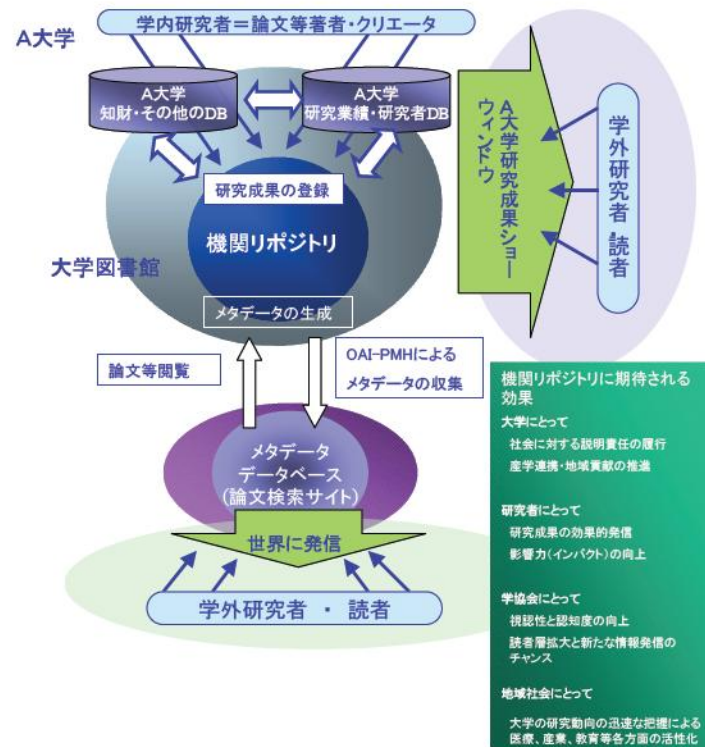
* 機関リポジトリ (Institutional repository)

cf) 資料1

2. 機関リポジトリとは(資料1)

研究成果ショーウィンドウ

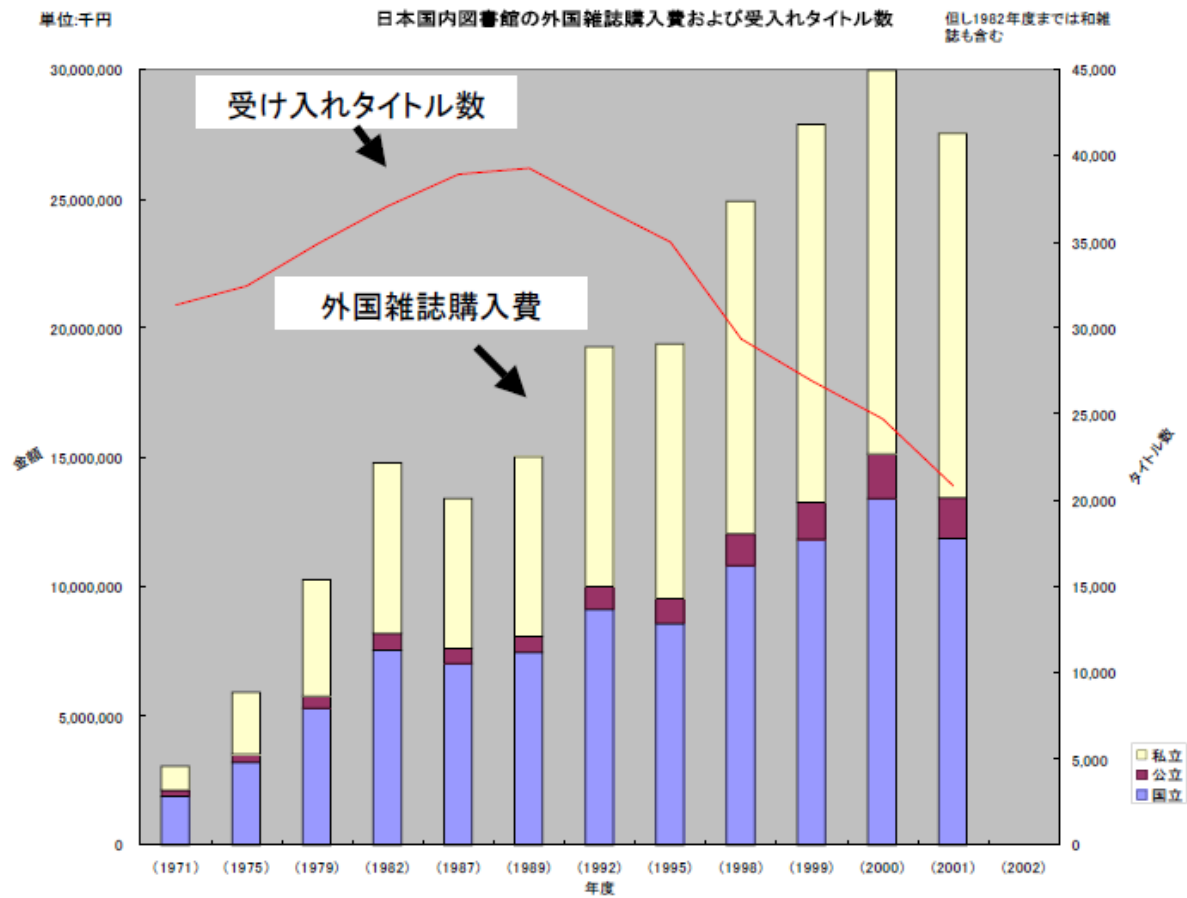
機関リポジトリは、単に学術成果を電子的に保存・発信するだけではありません。論文検索サイト(サービスピロバイダ)を通じて広く国内外に学術成果を発信するとともに、大学自身が、研究者情報等と有機的に連携した機関リポジトリの提供を実現し、各大学の研究成果を積極的・魅力的に発信する「ショーウィンドウ」の核としての役割を果たします。これにより、各大学の学術研究に対する学外からのニーズよりの確にに応じることができるようになり、産学連携や共同研究を一層促進するものとして期待されています。



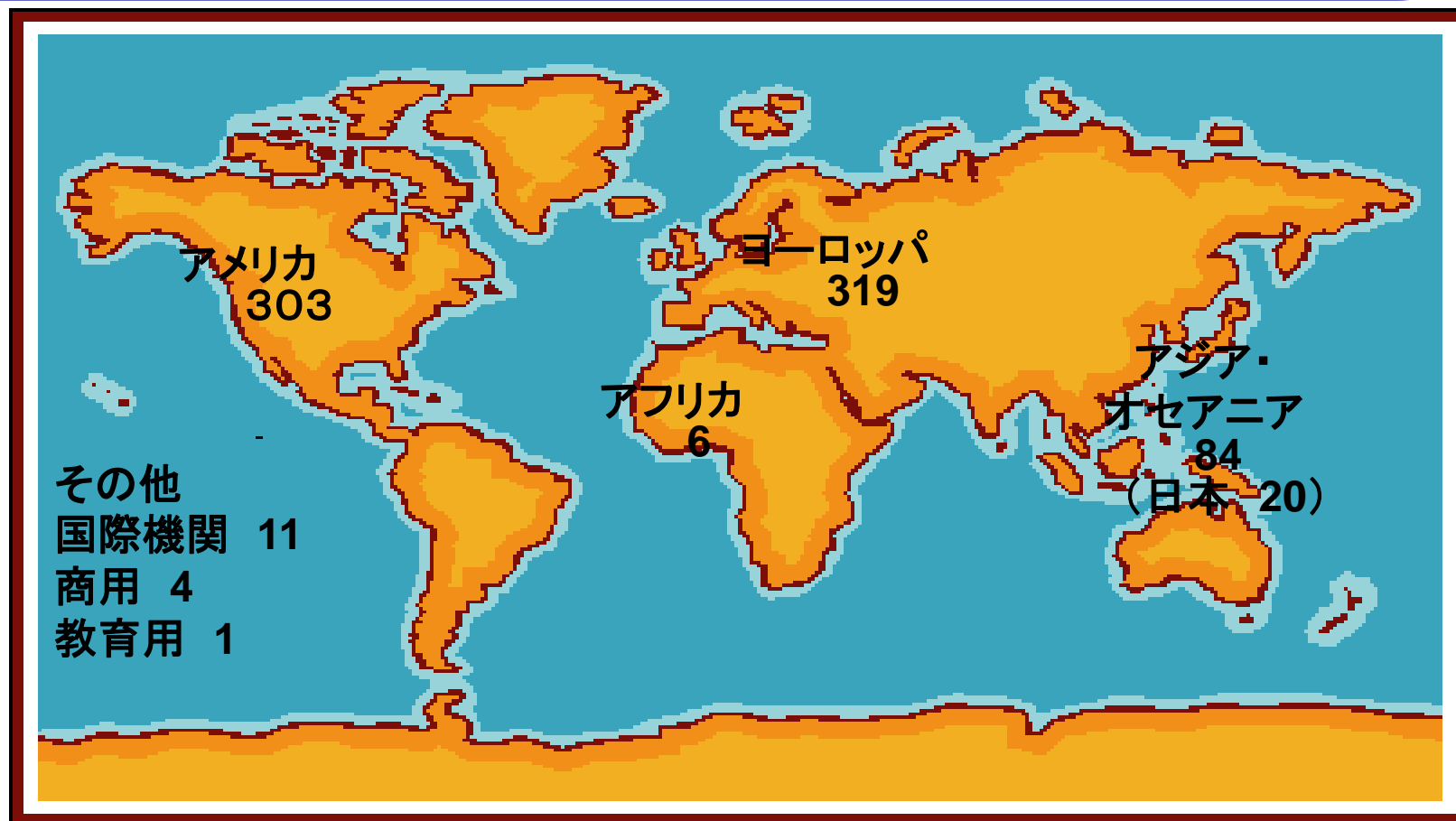
3. 機関リポジトリ誕生の背景

- コンピュータの普及と電子化の進展等による情報基盤の高度化
- 学術図書・ジャーナルの価格の高騰(シリアルズ・クライシス) cf) 資料2
- 大学の財政緊縮化傾向
 - 新たな学術コミュニケーション・システムの必要性(オープン・アクセス運動)
 - ⇒ 機関リポジトリの誕生・増加

3. 機関リポジトリ誕生の背景(資料2)



4. 世界の機関リポジトリ構築状況



世界の機関リポジトリ: 728 (2006年8月9日現在)

<http://archives.eprints.org/>

4. 世界の機関リポジトリ構築状況②

- 日本では…

北海道大学 HUSCAP

筑波大学 Tulips-R

東京大学 UT Repository

千葉大学 CURATOR

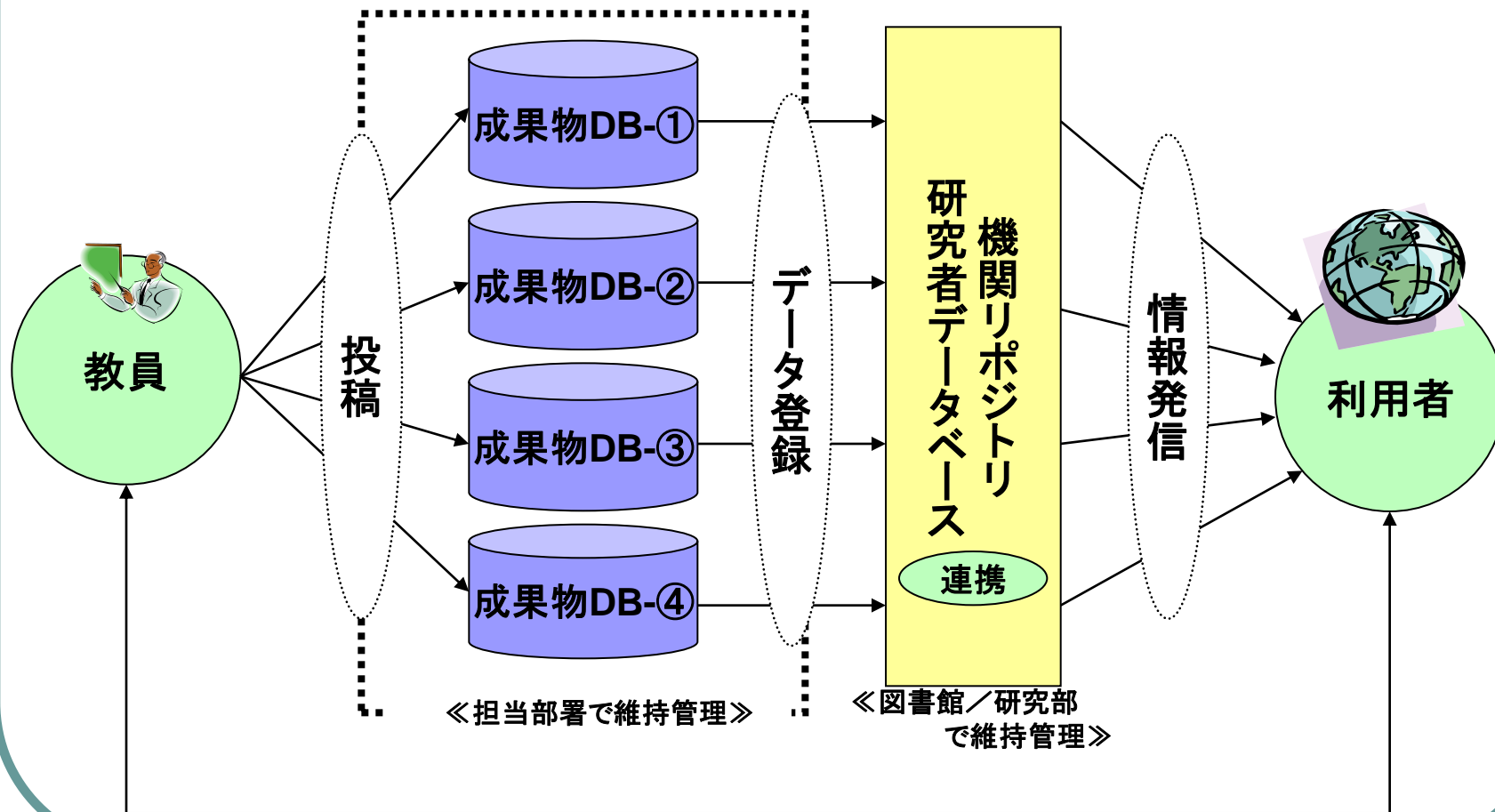
名古屋大学 NAGOYA Repository

早稲田大学 DSpace at Waseda University

など、20大学が先行公開中

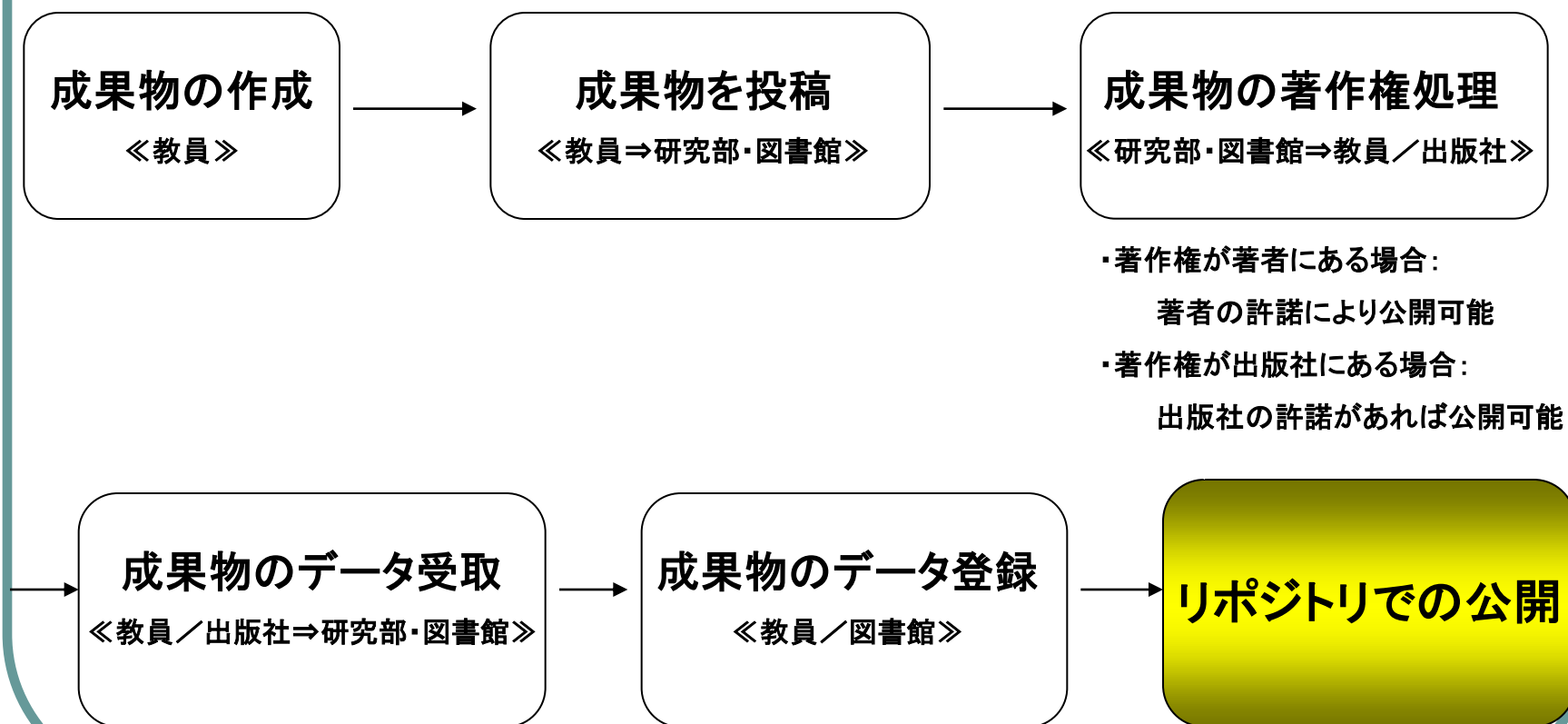
+約30大学が試験公開中 or 準備中

5. 機関リポジトリの仕組み①

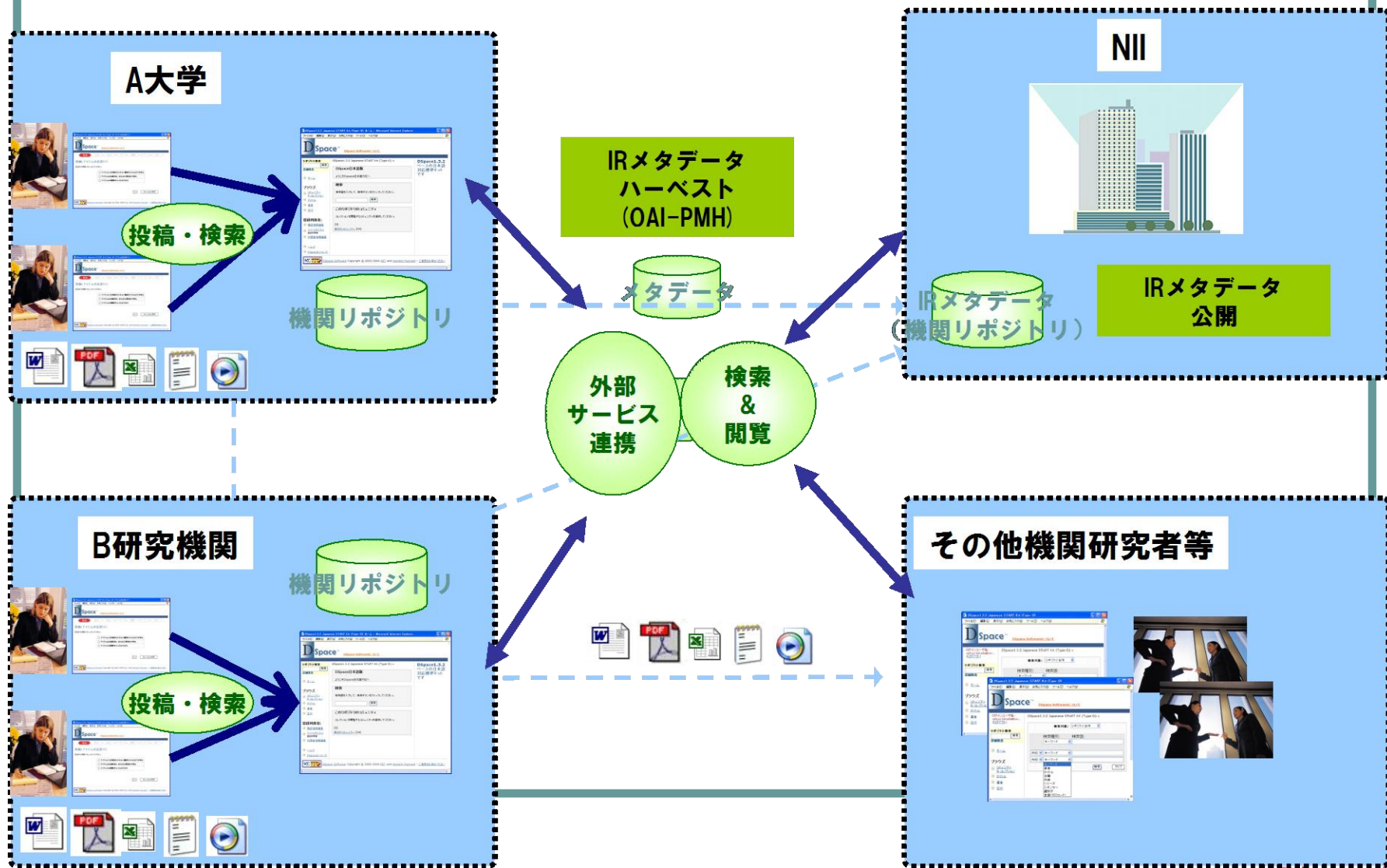


5. 機関リポジトリの仕組み②

● 登録までの流れ



5. 機関リポジトリの仕組み③



6. 機関リポジトリのメリット①（教員）

- 可視性の向上（自身の研究成果を広く世界に発信できる）

※Google等の一般的なサーチエンジン、THOMSON社のWeb of Science、ELSEVIER社のScirus等の電子論文検索エンジンから検索が可能に

- 世界中の研究成果物を入手可能
- 文献引用率の向上
- 新たな研究成果発表の場・ルートの新規創出
- 研究成果物の保存・管理

6. 機関リポジトリのメリット②（大学）

- **大学の社会に対する説明責任の履行**
- **大学のブランド力の向上**
- **研究成果の一元管理**

7. 対象となるコンテンツ

- 学術論文、学位論文、紀要論文
- 図書、雑誌
- 研究プロジェクト報告書
- 教材
- その他

* 学内で作成された研究成果物全てが対象

8. 研究者データベースとの関連性

- **機関リポジトリ**

論文等の一次コンテンツ本体(フルテキスト)を登載

- **研究者データベース**

研究業績を集約した二次情報データベース

⇒リポジトリとデータベースの連携により、
研究ショーウィンドウとしての役割が期待

9. 機関リポジトリ事例

- **千葉大学 CURATOR**
2005年7月 正式公開
- **NII(国立情報学研究所)**
最先端学術情報基盤事業
(Cyber Science Infrastructure : CSI)
→機関リポジトリ構築支援

* 具体的に画面を使って紹介